

## 愛知県埋蔵文化財調査センターから借用した土器を用いて

### 日本史Bの授業を行いました

2月6日（木曜日）・7日（金曜日）、**愛知県内の遺跡**から出土した土器片を観察し、その特徴から何時代のものかを類推するという授業を行いました。

教科書や図説、あるいは博物館等での展示でしか見ることのできない土器を実際に手に取って観察することは、めったにない機会です。

生徒たちは、これまで学んだことを基にして、互いに意見を出し合いながら考えました。

各時代の土器の特徴は、すでに学習済みですが、**実際に本物を目にする**と、今までイメージしていたものとの違いもあって戸惑っている生徒もいました。

以下に授業を終えた後の生徒の感想を記します

- 土器には、時代ごとに異なった特徴があり、面白い発見ができました。
- 最初は簡単だと思っていましたが、意外と見分けることは難しかったです。**授業で学んだ知識を使って類推していく**ことがとても楽しく感じました。歴史への興味がより高まりました。
- 土器のニーズや、生産方法などを実物に触れながら知ることができました。**当時の人々の生活を垣間見ることができました。**
- 小学生の時に埋蔵文化財調査センターへ行ったことがあります。家からも近いのでまた訪れたいと思いました。
- 今でこそ技術の発達で食器などを早く、大量に作ることはできますが、昔の人々が設備や道具が十分でない中で、あれほどしっかりしたものを作ることができたことに驚きました。縄文土器は思った以上に固くしっかりしていました。



\* 授業を行うにあたっては、授業者は事前に**愛知県埋蔵文化財調査センター（弥富市）**の職員さんから指導を受けました。